

釧路におけるイネ科牧草の 成分的特徴と活用について

近年、植生改善に関する取り組みが各地で行われています。普及センターでは、牧草展示圃を四年前に設置し、草種や品種の特徴を継続的に調査、検討してきました。(写真一)

本年、六月二四日に刈取りのサンプルを分析した結果、草種毎の特徴が明らかになりました。その中から特徴的な項目と今後の活用について紹介します。



写真1 普及センター展示圃

一、展示圃調査結果より ① 蛋白質含量について

グラフに示した六草種のうち一番高いのは、ペレニアルライ

グラス(略号PR)で、続いてトールフェスク(略号TF)、メドーフオックステール(略号MFT)、チモシー(略号TY)、リードカナリイグラス(略号RCG)、オーチャードグラス(略号OG)でした。最高と最低で約二倍の違いがありました。チモシーは、出穂期の六月二四日刈取り時は十二%程度になっていました。(図一)

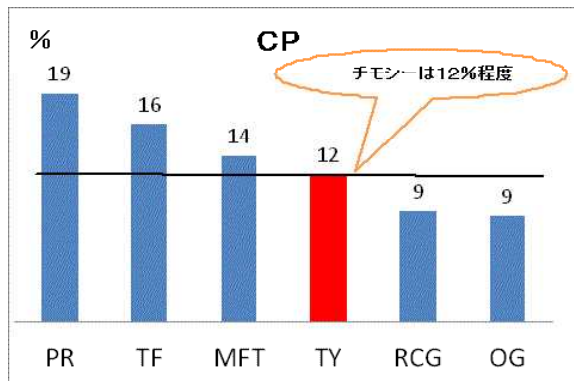


図1 イネ科牧草の蛋白質(CP)

② 繊維含量について

飼料中の総繊維を表す中性デタージェント繊維(NDF)もペレニアルライグラスが一番少なく、近年強害雑草として問題

になっているメドーフオックステールは七二%と一番高い結果となりました。目標値は六十%以下です。高くなると摂取量が減少します。サイレージ全体のNDFを下げるには、NDFの低いイネ科草の活用、刈取り時期の検討や、マメ科草との混播が必要になります。チモシー早生品種出穂期頃にはNDFが高めになっているのが実態です。(図二)

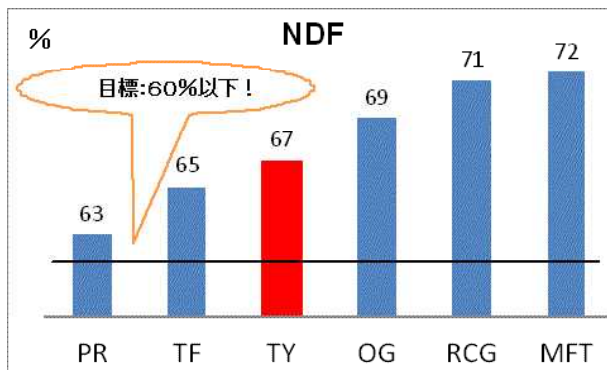


図2 イネ科牧草の総繊維(NDF)

二、今後の対応について

今年六月十二日に釧路市音別町のオーチャードグラス、ペレ

ニアルライグラス、シロクロローバ混播草地から採取したサンプルを分析しました。その結果、NDFは五五%と低く蛋白質は一二%となっていました。飼料設計で試算してみるとNDFが低いことで、サイレージ摂取量が一〇kg高まること分かりました。(表一)

表1 NDFの違いによるサイレージ摂取量

	オーチャード使用 (6月12日刈取)	現状 (チモシー主体)
牧草 NDF%	55	67
サイレージ kg	40	30

農場の刈取り時期や回数に制約はありますが、自給飼料の活用に向けた改善でより良い草づくりをめざしましょう。普及センターへお問い合わせください。